

【基本目標】1 産業振興

① 農畜産業支援

(1) 農畜産品の高付加価値化



現状と課題

現状

1 有機農業の推進体制の確立

高鍋・木城有機農業推進協議会を中心に、有機 JAS 認証の取得支援や生産拡大に向けた体制づくりを進めています。環境にやさしい農業への転換を地域全体で推進する動きが広がっています。

2 有機農産物の消費拡大の取組

オーガニックイベントなどを通じて、有機農産物の魅力発信や地産地消の推進に取り組んでいます。地域住民が環境にやさしい農業に関心を寄せる機運が高まりつつあります。

3 食育・農育の取り組み推進

小学生を対象に、有機実証圃場での農業体験や地産地消講話を行うなど、次世代への環境意識醸成に取り組んでいます。地域ぐるみの学びが広がっています。

課題

1 認証取得負担と販路確保の必要性

認証取得には費用や手間がかかり、収量の不安定さも課題です。安定した価格で販売できる販路の拡大と、再生産可能な価格設定を支える流通体制の整備が求められています。

2 地域内消費と理解促進の不足

学校給食や地域イベントでの導入が期待されますが、コスト負担や供給体制の課題から普及が進んでいません。町民の理解促進と地域内消費の拡大を継続的に進める必要があります。

3 継続的な教育機会の不足

体験事業は単発的で、継続的な教育の仕組みが十分ではありません。世代を超えて持続可能な農業への理解を深めるための体制づくりが課題となっています。

関連する個別計画等

計画等の名称	開始年度	終了年度
高鍋・木城有機農業実施計画	令和5年度	令和9年度

4年後に目指す姿

オーガニックタウンとして地域ブランドを確立し、有機 JAS 認証農産物をはじめとする環境にやさしい農産物の生産拡大を支援します。生産から消費までを地域全体で支える仕組みを整え、持続可能な農業経営と地域内循環型の食と農のまちづくりを進めます。

取り組み	指標	
	令和6年度 (実績値)	令和11年度 (目標値)
1 有機農業の生産拡大支援 認証取得支援や環境保全型農業交付金の活用により、有機農業への転換を促進します。販路開拓や情報発信を強化し、地域の生産者が持続的に経営できる環境を整えます。 主な事業： 高鍋・木城有機農業支援事業、環境保全型農業直接支払交付金事業	有機 J A S 認証面積 (a) 2,228	3,000
2 地域内消費の推進と連携拡大 官民連携によるイベント運営や学校給食への導入検討を進め、消費者理解を深めます。生産者・消費者・行政が一体となって地域ぐるみの循環型食文化を育みます。 主な事業： 高鍋・木城有機農業推進協議会事業	オーガニックイベントの 開催回数 (回) 0	2
3 食育・農育の体系的推進 学校・生産者・行政が連携し、農業体験や講話を年間行事化します。環境教育の充実を通じて、持続可能な農業を核とした「学びの農村づくり」を進めます。 主な事業： 環境保全型農業推進協議会事業	食育・農業教育の実施回数 (回) 5	6



(2) 積極的な補助・支援



現状と課題

現 状

1 認定農業者の増加と課題

認定農業者は増加しており、若い世代の就農も見られますが、集約化は進まず、遊休農地の増加が懸念されています。土地の保全と持続的な営農環境の整備が求められます。

2 スマート農業の進展

一部でスマート農業技術の導入が進み、生産性の向上に寄与していますが、機器導入費用の負担が大きく、広範な普及には支援が必要な状況です。

3 鳥獣被害防止対策の推進

気候変動や里山管理の衰退などにより野生鳥獣の生息環境が変化し、農作物への被害が拡大しています。地域ぐるみの防止対策が重要となっています。

4 災害リスクと経営安定化

猛暑や大雨など自然災害の影響で収量減やコスト増が発生しています。経営リスクに備えるため、保険加入や補助金などの支援体制が求められます。

課 題

1 新規就農者支援の強化

農地確保や機械導入など初期投資の負担が重く、就農希望者の参入障壁となっています。若手や移住者が安心して農業を始められる環境整備が課題です。

2 農業経営の安定化

資材や燃料費の高騰が続き、機械更新や規模拡大への投資が難しくなっています。経営基盤を強化し、持続的な農業経営を支える支援が必要です。

3 鳥獣被害の抑制と技術導入

捕獲活動の担い手不足や費用負担の増大が課題です。ICT・AIを活用した効率的な被害防止体制の構築が求められます。

4 自然災害への対応力向上

台風や豪雨による被災施設の復旧の遅れや復旧費用の農家負担は、営農継続に深刻な影響を及ぼします。災害時の迅速な支援体制を確立する必要があります。

関連する個別計画等

計画等の名称	開始年度	終了年度
高鍋町地域計画	令和6年度	令和17年度
高鍋町鳥獣被害防止計画	令和8年度	令和10年度

4年後に目指す姿

高齢化や人口減少に伴う後継者不足に対応し、若者や移住者の就農を支援します。農地や環境を守りながら、生産性向上と経営安定化を図り、災害や価格変動にも強い持続可能な農業を実現します。地域資源を活かし、次代につながる活力ある農畜産業を育てます。

取り組み	指標	
	令和6年度 (実績値)	令和11年度 (目標値)
1 新規就農者・後継者への支援 就農初期費用や機械導入費への補助を行い、研修や相談体制を整備します。若者や移住者の参入促進により、次世代の担い手を育成します。 主な事業： 新規就農者育成総合対策事業、新規就農者支援事業	指標名 (単位) 新規就農者の数 (累計) (経営体)	
	4	9
2 認定農業者の経営支援 各種補助事業の活用を促し、設備更新や経営改善に取り組みやすい環境を整えます。農地の集約化や基盤整備を進め、持続的な営農を支援します。 主な事業： 持続的農業生産基盤支援事業、施設園芸生産基盤整備事業、経営体育成支援事業	指標名 (単位) 認定農業者の数 (経営体)	
	158	160
3 スマート技術による鳥獣被害対策 捕獲通知センサーやAIを活用した罠管理を導入し、効率的な被害防止を図ります。地域ぐるみの鳥獣被害対策を推進します。 主な事業： スマート捕獲等普及加速化事業	指標名 (単位) スマート技術を使った 有害鳥獣駆除方法を 導入した罠設置個所 (件)	
	0	10
4 災害・経営リスク対策の充実 収入保険制度の加入促進や災害復旧費補助を行い、農家が安定して営農を続けられるよう支援します。防災・減災意識の向上にも取り組みます。 主な事業： 収入保険加入支援事業、園芸施設災害助成金事業	指標名 (単位) 収入保険の加入経営体数 (経営体)	
	77	80

(3) 農業活性化支援



現状と課題

現 状
<p>1 教育機関との連携による地域農業支援</p> <p>高鍋農業高校や農業大学校と連携し、地場産品を使った商品開発や就農研修などを実施し、農業の魅力発信と地域産業の育成を進めています。</p>
<p>2 農泊事業の準備と関係団体の協働</p> <p>生産者や飲食業、宿泊業者などが参加する農泊推進協議会を立ち上げ、農泊事業の実施に向けた地域連携体制の構築を進めています。</p>
<p>3 地産地消ボードによるPR活動</p> <p>町内飲食店に地産地消ボードを設置し、高鍋産農産物を使ったメニューをPRするなど、生産者と消費者をつなぐ取組を推進しています。</p>

課 題
<p>1 教育機関連携の周知と発信力の強化</p> <p>高鍋農業高校や農業大学校の活動を町内外に広く発信し、地域内での理解と協力を深める仕組みづくりが求められています。</p>
<p>2 農泊事業の実施体制の確立</p> <p>体験プログラムや宿泊、食事などの地域コンテンツを充実させ、交流人口の拡大につながる実施体制の確立が課題となっています。</p>
<p>3 地産地消の継続的拡大</p> <p>地産地消ボード設置店舗を増やすとともに、農泊やイベントと連携し、取組の継続・拡大を支える仕組みが必要です。</p>



4年後に目指す姿

高鍋農業高校や農業大学校などの教育機関、地域おこし協力隊との連携を深め、次世代の農業担い手を育成します。地産地消や農泊事業など地域資源を活かした食と農の振興を進め、地域住民と来訪者が交流する魅力ある「農のまち・高鍋」を実現します。

取り組み	指標	
	令和6年度 (実績値)	令和11年度 (目標値)
1 教育機関連携による人材育成の推進 高鍋農業高校や農業大学校の活動支援を通じて、農業に関心を持つ若者の育成と地域資源の魅力発信を図ります。 主な事業： 魅力ある農業教育推進協議会運営補助金事業	高鍋農業高校が 地域PRのため県内外の 販売会に参加した回数(累計) (回) 1 4	
2 農泊事業の本格実施と体制整備 農泊推進協議会を核とした農業体験や食文化体験などを組み合わせた交流事業を展開し、地域ぐるみの受入体制を整えます。 主な事業： 農泊事業	農業体験の参加人数(累計) (人) 0 120	
3 地産地消と販路拡大の推進 農泊事業や地産地消ボードを通じて、飲食店や観光事業者との連携を強化し、地元農畜産物の販売促進を進めます。 主な事業： 農泊事業	地産地消ボードの 設置店舗数(累計) (店舗) 11 15	



② 商工業支援

(1) 商工業・地場産業支援



現状と課題

現 状	課 題
<p>1 商店街の現状とにぎわい</p> <p>大型店舗やネット通販の影響で商店街への来客は減少していますが、商店街連合会による「夕やけ市」など一時的なにぎわいづくりが続けられています。</p>	<p>1 商店街の衰退と後継者不足</p> <p>経営者の高齢化などで、空き店舗増加が懸念されます。日常的なにぎわい創出や若者の定着促進が求められます。</p>
<p>2 地場産業の取組と販路拡大</p> <p>商工会議所などと連携し、物産展出演や新商品開発を行っています。経営者の高齢化や人手不足が進んでいます。</p>	<p>2 新商品開発と販路拡大の停滞</p> <p>地場製品のブランド力不足や知名度の低さがあり、市場拡大が進みにくい状況です。効果的なPRと支援策が必要です。</p>
<p>3 ふるさと納税の推進と効果</p> <p>町のPRや財源確保に寄与し、事業者の売上向上に貢献しています。町内事業者による返礼品の開発が進んでいます。</p>	<p>3 ふるさと納税の寄附額増加への対応</p> <p>寄附額増に向けて、魅力的な返礼品の開発が課題です。地域商社の設立により、事業者との連携強化が求められます。</p>



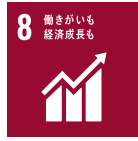
4年後に目指す姿

地域の強みを活かした商工業の発展を図り、地場産業が持続的に成長できる環境を整えます。ふるさと納税や新商品開発、商店街活性化などを通じて地域ブランドを育成し、町内事業者の挑戦を支援します。地元と全国を結ぶ豊かな経済循環の仕組みを確立します。

取り組み	指標	
	令和6年度 (実績値)	令和11年度 (目標値)
1 地域連携による商店街支援の強化 商工会議所や商店街連合会と連携し、イベント支援や補助制度の周知、プレミアム商品券発行などを通じて日常的なにぎわい創出を図ります。 主な事業： 商店街にぎわい創出支援事業、中小企業対策事業、特別融資制度事業	指標名 (単位) 令和6年度 (実績値) 39	令和11年度 (目標値) 39
2 地場産業と新商品開発の推進 新商品開発支援や販路拡大を支援し、ブランド化を進めます。物産展やPR活動を強化し、町外への発信を拡大します。 主な事業： 新商品開発支援事業	令和6年度 (実績値) 1	令和11年度 (目標値) 1
3 ふるさと納税を軸とした地域経済循環 地域商社と連携し、返礼品開発を強化することで町内産業の魅力を全国へ発信します。寄附増加を通じて事業者の成長を支援します。 主な事業： ふるさと納税推進事業	令和6年度 (実績値) 10	令和11年度 (目標値) 30



(2) 商店街・「まちなか」の活性化



現状と課題

現 状

1 まちなみ景観形成の推進

城下町高鍋らしいまちなみの維持・形成を目的に、店舗や住宅の改修・改築に対して補助金を交付しています。地域の特色ある景観を保ちながら、魅力的な商店街づくりを支援しています。

2 空き店舗活用の取組

中心市街地では一部で空き店舗を活用した新規開業が見られ、にぎわい創出支援事業により活用を促進しています。商店街と「まちなか」の再生に向けた取組を進めています。

課 題

1 景観形成への支援拡大

店舗の外観改修には多額の費用がかかることが課題です。商店街以外の地域でも、魅力的なまちなみ形成に向けた支援策を検討する必要があります。

2 空き店舗の利用促進

活用できる空き店舗の数が限られており、老朽化など利用しづらい物件も多いです。登録制度や改修支援を通じて利活用を進める必要があります。

関連する個別計画等

計画等の名称	開始年度	終了年度
高鍋町景観計画	平成 25 年度	—



4年後に目指す姿

城下町高鍋の歴史と風情を感じるまちなみを守りつつ、商店街や中心市街地を、人と人をつなぐ交流の場として再生します。空き店舗の利活用や景観形成を進め、住む人・訪れる人の双方が集い、暮らしとにぎわいが共存するまちの顔を実現します。

取り組み		指標	
取り組み	取り組み	指標名（単位）	
		令和6年度 （実績値）	令和11年度 （目標値）
1	景観形成支援の充実	事業実績数（累計） （件）	
	民間事業者と連携し、景観計画に沿ったまちなみ整備を推進します。補助制度の周知や相談体制を強化し、城下町らしい商店街の景観を次世代へ継承します。		
	主な事業： 魅力ある商店街形成支援事業	0	1
2	空き店舗利活用の推進	空き店舗等 活用件数（累計） （件）	
	空き店舗等を活用し、創業希望者等への店舗改修支援を行います。まちなかに新たな人の流れを生み出し、地域のにぎわい創出を図ります。		
	主な事業： 空き店舗等活用にぎわい創出支援事業	1	2



(3) 商工業の活性化



現状と課題

現 状

1 地域イベントによる商工振興

地場産業振興会や餃子のまち高鍋推進協議会などの団体により、地域イベントによる物産展や餃子フェスなどが盛んに開催され、町内外へのPR活動が活発に行われています。

2 商工団体による後継者育成

商工会議所青年部や女性会などが研修や視察を実施し、地域を担う人材育成に取り組んでいます。団体活動を通じた次世代経営者の育成を図っています。

3 地域おこし協力隊等の活用

地域おこし協力隊によるSNS発信などで観光や地場産業の魅力発信に貢献しています。また、地場産業の振興を目的とした地域活性化起業人の登用も始まっています。

4 商工会議所との協働体制

商工会議所と連携し、融資制度の周知や補助事業の支援を通じて、商工業者の経営改善・安定化に取り組んでいます。

課 題

1 イベントの継続と創出

定着してきている高鍋城灯籠まつりの物産展や餃子フェスなどを継続していくとともに、新規イベントの創出が課題です。

2 商工団体の会員減少

商工業の後継者育成において、商工団体の活動は重要なものであるものの会員減少が課題です。

3 地域活性化人材の活用

商工業振興を図っていくために、外部の専門人材を積極的に活用することで、これまでとは違う視点からの振興対策を模索していく必要があります。

4 中小企業支援の強化

物価高騰などにより事業者の経営環境が厳しく、資金繰り支援や経営安定化策の一層の拡充が必要です。



4年後に目指す姿

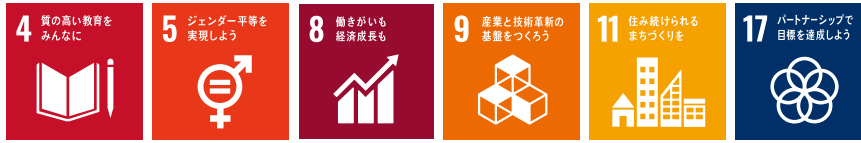
町内の商工業者と地域での活動する人たちの動きが安定して続き、新たな取組が生まれる環境を作ります。イベントの充実、商工団体の活性化、人材の育成、中小起業支援を進め、挑戦を継続する流れを促進します。

取り組み	指標	
	令和6年度 (実績値)	令和11年度 (目標値)
1 商工業イベントの支援強化 地場産業振興会等の活動を支援し、物産展や餃子フェスなど地域イベントの継続・拡充を図ります。地域内外へのPRで販路拡大と地元産業の活性化を促します。 主な事業： 地域商業活性化イベント支援事業	イベント開催及び参加回数 (回)	
	5	6
2 後継者の育成支援 商工業者の後継者等の育成に取り組む高鍋商工会議所（商工団体）の活動を支援します。 主な事業： 商工業振興対策事業	商工会議所青年部会員数 (人)	
	49	50
3 地域おこし協力隊・地域活性化起業人制度の活用 地域資源の発信や地場産業振興に関する知見を持つ人材を登用し、地域課題解決と起業促進を図ります。地域おこし協力隊の活動後の定住・定着も支援します。 主な事業： 専門人材活用事業	採用人数 (人)	
	1	5
4 商工会議所との連携推進 商工会議所と連携して商工業者の人材育成を支援し、中小企業向け融資制度の充実と活用の促進を図り、経営の改善・安定を支援します。 主な事業： 商工業振興対策事業	商工会議所との 定例協議の開催回数 (回)	
	0	1



③ 企業誘致・雇用促進

(1) 起業家養成・新産業創生



現状と課題

現 状	課 題
<p>1 企業誘致の取組状況</p> <p>企業立地奨励条例に基づき、過去には大手企業の誘致実績があります。現在も県や産業団体と連携しながら、立地希望企業への情報提供や条件整備に取り組んでいます。</p>	<p>1 工業用地の確保</p> <p>町内には工場や事業所の新規立地に適した土地が少なく、企業誘致の候補地が限定されています。用途地域や農振地域などの規制への対応が必要です。</p>
<p>2 創業支援体制の整備</p> <p>商工会議所を中心に、創業相談や融資・補助制度の活用支援、創業時の負担軽減や経営安定化の支援を行っています。</p>	<p>2 地元雇用の拡大</p> <p>若年層の町外流出が続き、町内での安定した就業機会が十分ではありません。地域企業の人材確保や地元就職の促進が課題です。</p>
<p>3 人材育成と教育連携</p> <p>企業が求めるスキルを備えた人材の育成に向けて、学校教育や地域企業との連携によるキャリア教育、インターンシップなどが実施されています。</p>	<p>3 創業支援の拡充</p> <p>創業時の資金確保や事業ノウハウの不足により、挑戦をためらう傾向があります。創業補助制度や伴走支援体制の充実が求められます。</p>
<p>4 地域経済の動向</p> <p>商工業を中心に地域産業が支え合いながら発展しています。近年はデジタル技術の導入や地域資源を活かした新事業への関心が高まっています。</p>	<p>4 新産業の創出</p> <p>地域資源を活かした新分野への展開が十分に進んでいません。デジタル化や異業種連携を通じた新たな産業づくりが必要です。</p>



4年後に目指す姿

地域に根ざした起業家や新産業が次々と生まれ、地域資源を活かした多様なビジネスが展開されるまちを目指します。企業誘致による雇用の創出と、創業支援による新たな挑戦を支える環境を整備し、若者や移住者が高鍋町で働き、活躍できる地域経済を実現します。

取り組み		指標	
取り組み	取り組み	指標名 (単位)	
		令和6年度 (実績値)	令和11年度 (目標値)
1	企業誘致の推進	誘致企業の件数 (累計) (件)	
	<p>県や関係団体と連携し、誘致企業への支援体制を強化します。立地候補地の整備や情報発信を進め、地域に新たな雇用と経済効果をもたらす企業誘致を推進します。</p> <p>主な事業： 企業誘致推進事業</p>	0	1
2	地元雇用・人材育成の促進	UIJターンを活用した 地元就職者数 (人)	
	<p>企業ニーズに対応した職能教育や研修を推進し、地域企業と学校が連携した人材育成体制を構築します。若者が町内で働ける環境を整えます。</p> <p>主な事業： UIJターン促進事業</p>	0	5
3	創業支援の強化	創業支援件数 (件)	
	<p>創業相談、経営指導、補助制度の活用支援を一体的に行い、創業意欲のある人が挑戦できる仕組みを整えます。女性や若者の起業も後押しします。</p> <p>主な事業： 創業支援事業</p>	4	6
4	新産業創生の推進	新産業創出件数 (累計) (件)	
	<p>地場産業の技術や地域資源を活かし、新産業を創出します。官民連携で新たなビジネスモデルの形成を支援します。</p> <p>主な事業： 新産業創出事業</p>	0	1

④ 観光促進

(1) 観光資源を活かした観光推進



現状と課題

現 状	課 題
<p>1 観光情報発信の取組</p> <p>町公式 SNS や観光サイトで、イベント告知や飲食店情報などを発信し、町内外に観光情報を届けています。観光協会とも連携し、地域 PR 活動を継続しています。</p>	<p>1 情報発信力の向上</p> <p>SNS やウェブの発信は継続しているが、新規フォロワーや町外への波及効果を高める戦略が課題です。</p>
<p>2 観光イベントの実施</p> <p>高鍋城灯籠まつりや九州オルレ、農泊体験など、多様な観光イベントを協働で実施し、交流人口の増加や地域活性化に寄与しています。</p>	<p>2 イベントの継続性と新規性</p> <p>高鍋城灯籠まつりなどのイベントは定着しているものの、運営人材の固定化や新しい観光需要への対応が必要です。</p>
<p>3 駅周辺エリアの整備</p> <p>高鍋駅交流拠点施設が整備され、観光協会が管理者として運営しています。駅を中心に観光情報を発信し、にぎわいづくりに活用されています。</p>	<p>3 観光資源の連携不足</p> <p>観光施設・イベント間の連携が不十分で、周遊性の向上や観光ルートの整備が求められています。</p>
<p>4 歴史・文化資源の活用</p> <p>高鍋城址公園や古墳群、町家などの歴史的景観を保存しながら、観光や学びの場として活用する取組が進められています。</p>	<p>4 観光拠点の機能強化</p> <p>高鍋駅交流拠点施設を核とする観光ネットワークの形成が進行中であり、周辺施設との連携やアクセス性向上が今後の課題です。</p>



4年後に目指す姿

地域の豊かな自然や歴史・文化資源を磨き上げ、観光資源を面的に結びつけて発信します。高鍋駅交流拠点施設を中心に観光・商業エリアを回遊できる環境を整え、町民と観光客が共に楽しめる仕組みをつくります。誰もが訪れたい魅力と活力のあるまちを目指します。

取り組み	指標	
	令和6年度 (実績値)	令和11年度 (目標値)
1 デジタルによる観光PR強化 町公式 SNS や観光サイトを活用し、動画や体験型コンテンツなどの発信を充実させ、効果的な誘客促進を図ります。 主な事業： 観光情報発信強化事業	町公式 Instagram フォロワー数 (人) 1,825	3,000
2 地域資源を活かしたイベントの創出 高鍋城灯籠まつりや九州オルレなど既存イベントの魅力を高めつつ、新しいテーマの観光イベントを企画し、交流人口を拡大します。 主な事業： 新規イベント創出事業	観光イベント開催回数 (回) 10	15
3 観光拠点機能の充実 高鍋駅交流拠点施設を中心に観光案内や地域特産品の紹介を行い、商店街や飲食店との連携により回遊性を高めます。 主な事業： 駅拠点施設を活用したにぎわい創出事業	駅交流拠点施設利用件数 (件) 0	948
4 歴史・文化資源の再生と活用 城下町の景観整備や古民家再生を進め、文化財や文教施設を観光資源として再編し、地域ブランドの向上につなげます。 主な事業： 歴史文化回遊ルート整備事業	町内観光ルート 作成数(累計) (ルート) 0	1

(2) 観光資源開発



現状と課題

現状

1 歴史文化を活かす観光

高鍋城灯籠まつりや桜まつりなど地域イベントを通じ、歴史・文化資源を活かした観光振興を進めています。また、観光協会を中心にボランティアガイド育成など観光活動も行われています。

2 広域連携による誘客

「さいとこゆ観光ネットワーク」など、近隣市町村との連携による広域イベントを継続的に開催し、地域の魅力を発信しています。九州オルシなどの広域観光ルートの整備にも取り組み、観光圏の形成が進んでいます。

3 観光人材の育成と支援

観光協会を通じ、観光ボランティアガイドの養成やイベント運営など地域人材による観光推進体制を整備しています。歴史・文化を語れる人材が観光客との交流を支え、地域への理解と愛着を深める取組が進んでいます。

課題

1 歴史資源の発信力不足

高鍋城址や持田古墳群などの歴史・文化資源が点在しており、連携した観光ルートや統一的なPRの不足により、町全体としての魅力が十分に伝わっていません。資源の磨き上げと情報発信力の強化が求められます。

2 イベントと観光施設の連携不足

イベント単体での集客は一定の成果を上げているものの、観光施設や商店街との回遊性が弱く、経済波及効果が限定的です。地域内での一体的な誘導と滞在促進の仕組みづくりが課題です。

3 観光担い手の減少

観光ボランティアガイドやイベント運営スタッフの高齢化が進み、新たな担い手の確保が難しくなっています。若年層や地域外人材の参加促進、継続的な育成体制の整備が必要です。



4年後に目指す姿

地域の歴史や文化、自然など多彩な資源を磨き直し、体験型・交流型の観光コンテンツとして発信します。文教の町としての魅力を活かし、歴史・文化資源をつなぐ観光ルートを整備し、町民と観光客がともに誇れる持続可能な観光のまちを目指します。

取り組み	指標	
	令和6年度 (実績値)	令和11年度 (目標値)
1 歴史文化資源の活用促進 歴史的景観や文教施設を観光資源として再整備し、デジタル散策マップの作成などにより魅力的な観光体験を提供します。文化と観光を結ぶ地域回遊の仕組みを強化します。 主な事業： 歴史文化回遊ルート整備事業	観光マップやデジタルコンテンツ整備件数(累計)(件)	0 3
2 広域観光とイベント連携強化 観光協会や近隣市町との連携を強化し、持田古墳群・舞鶴公園などを結ぶ広域観光ルートを創出します。地元イベントと観光施設を結びつけ、地域一体の誘客・交流促進を図ります。 主な事業： 広域観光連携強化事業	広域観光ルートの作成数(累計)(ルート)	0 1
3 観光人材の育成と継承支援 観光ボランティアガイドの新規養成を支援し、地域資源の案内やイベント運営を担う人材の確保を進めます。学校や団体と連携した学びの機会を設け、観光を通じた地域愛の醸成を図ります。 主な事業： 観光協会運営費補助事業	観光ボランティアガイド人数(人)	20 20

